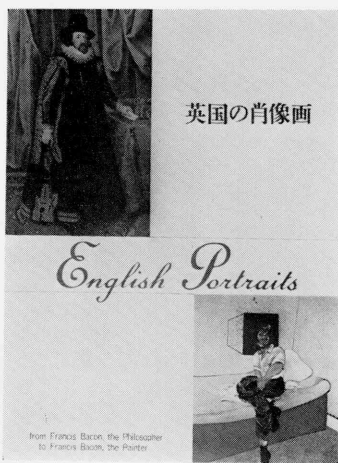
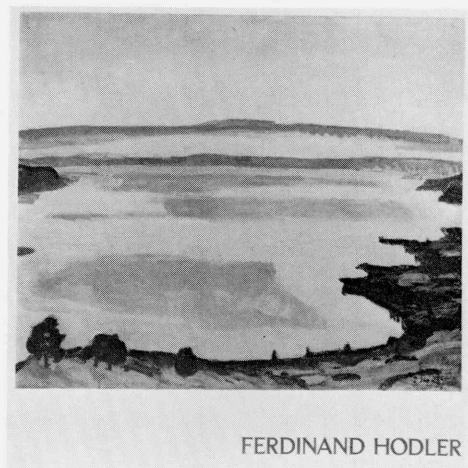


特別展記録



＊ホドラー展

EXPOSITION FERDINAND HODLER

1975年4月5日～5月25日

主催：国立西洋美術館・スイス＝プロヘルヴェティア文化財団・京都市・朝日新聞社

出品内容＝油彩58点、素描・水彩42点、彫刻1点、計101点

ベックリン、クレー、ジャコメッティ、ル・コルビュジェ等、近代のスイスからは個性的な大芸術家が輩出しているが、ホドラーもその一人で、世紀末から今世紀初頭にかけて、アール・ヌーヴォーあるいは象徴主義的な時代背景のもとに活躍した。ホドラーはドイツ、イタリア等にも旅行したが、生涯の大半を祖国ですごしたため、国際的な知名度は必ずしも高くなく、それだけにスイスの風土に深く根ざした極めてスイス的な画家として、近代絵画史に独自の地位を占めている。ホドラーの作品は風景画、肖像画、それに象徴主義的な寓意画が中心を占めているが、特に晩年の作品は、ドイツ、オーストリアの表現主義の画家たちに大きな影響を与え、ムンク、ヴァン・ゴッホ、アンソール等と共に表現主義の先駆者としても重要な地位を占めている。朝日新聞社と共催の本展の出品作は、スイスの国際文化交流を使命とするプロヘルヴェティア財団およびホドラー研究の権威ユラ・ブリュッシュヴァイラー氏の協力のもとに、スイス各地の公私のコレクションから集められたもので、初期から最晩年に至る彼の芸術の全貌をうかがわせるに十分なものであった。

＊英国の肖像画

哲学者フランシス・ベーコンから
画家フランシス・ベーコンまで

ENGLISH PORTRAITS

from Francis Bacon, the Philosopher
to Francis Bacon, the Painter

1975年10月25日～12月14日

主催：国立西洋美術館・ブリティッシュ・カウンシル
出品内容＝油彩73点、ミニアチュール31点、素描・
水彩55点、版画27点、計186点

18世紀以前の英国画壇は、ホルバイン、ヴァン・ダイクなどの外来の画家の活躍を除けば、ヨーロッパ絵画史上特に重要な地位をしめているとはいえない。しかし18世紀に入り、ホガース、レノルズ、ゲインズバラ等が輩出し、いわゆる国民画派が形成されるに及んでにわかに脚光を浴び出した。これらの画家たちは歴史画や風俗画も手がけたが、特に肖像画に多くの秀作を残し、英国の肖像画の黄金時代を築くと同時に、その後の伝統の基礎を築いた。特に家族や知人たちの親しい集いを描いた風俗的な集団肖像画（カンヴァセーション・ピース）は、18世紀の英国社会が生んだユニークなジャンルとして知られる。19世紀に入ると、ターナー、コンスタブルに代表される風景画が抬頭しているが、肖像画もその地位を失わず、その傾向は今世紀に入っても変わらない。

当館では1970年に「英国風景画展」を開催し、好評を博したが、今回もまたブリティッシュ・カウンシルの全面的な協力をあおいで、英国の60有余の美術館およびコレクターから186点に及ぶ出品を得た。その内訳は油彩画の他、水彩、素描、版画、ミニアチュール等各方面に及び、また時代的には、本展の副題「哲学者フランシス・ベーコンから画家フランシス・ベーコンまで」にある通り16世紀末から現代に及び、英国肖像画の豊かな展開を総覧するに十分なものであった。



＊松方コレクション展

1975年11月1日～11月30日

主催：国立西洋美術館・山形県・山形県教育委員会・山形市・山形市教育委員会・山形美術博物館・山形新聞・山形放送
会場：山形美術博物館
出品内容＝絵画60点、彫刻20点

講演会記録

「ホドラー展」特別講演会

4月5日(1975年)

〈フェルディナント・ホドラーの人と芸術〉

美術史家 ユラ・ブリュッシュヴァイラー(通訳 穴沢一夫)

4月17日

〈文学と美術におけるアルプス〉

上智大学教授 トーマス・インモース

「英国の肖像画展」特別講演会

10月25日

〈英国の肖像画〉

元ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長
サー・トレンチャード・コックス(通訳 千足伸行)

11月1日

〈英国18世紀の生活と絵画〉

元ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長
サー・トレンチャード・コックス(通訳 八重樫春樹)

11月8日

「ホガースとディケンズ——絵画と文学」

東京教育大学教授 桜庭信之

修復記録

1 ビュヴィス・ド・シャヴァンヌ

《貧しき漁夫》(P・1959-175)

1883年頃 油彩 カンヴァス 105×68cm

状態概要: 画面は1959年に一度洗浄されたが、麻布裏面の亀裂、ひび割れの周辺にその洗剤による染みが残っていた。絵具層・地塗層のひび割れは深く、特に中央部はひび割れの背後の麻布の糸が著しく劣化していて、絵具層が鱗片状の凹凸をなしていた。絵具層そのものの保存状態は、ひび割れ、亀裂の点を別にすれば比較的良好であった。一度行われた洗浄も穏やかなもので洗い残しも見られた。

描き直しのカンヴァス(“古キャン”)を使用した形跡があり、従ってもともと絵具層が厚く、ひび割れを生じ易い状態にあったと推定される。

修復処置: 蜜蝋およびダンマル樹脂等の混合接着材を用いて新しい麻布による全面裏打。テレピン精油、ミネラル・スピリットを用いて、画面に滲透してきた接着材の余剰の除去および画面の洗浄。保護膜塗装(スプレータイプのセミ・マット・タブロー・ニス使用)。

2 ウジェーヌ・ドラクロワ

《聖母の教育》(P・1970-1)

1852年 油彩 カンヴァス 46×55.5cm

状態概要: 基底材は薄手の麻布で、たるみを矯正するため楔を強く打込んで張ってあった。そのため麻布は全般的に劣化し、周辺部では特に繊維の強度が失われていた。また地塗りに亀裂が生じ、それによって麻布は横に収縮し縦にこまかい起伏をなすに至っていた。地塗りは全面にひび割れを生じ、特に右上隅に斜めに深いひび割れが認められた。絵具層は、ひび割れ、亀裂の点を除いて良好な状態にあったが、右上隅の樹木を塗りつぶして空に描き替えた部分に変色が認められた。保護膜のニスは黄変が甚しい。

修復処置: 蜜蝋およびダンマル樹脂等の混合接着

材を用いて新しい麻布による全面裏打。テレピン精油、アルコール、ミネラル・スピリット、トルエンを使用して黄変ニスの除去と画面の洗浄。変色した絵具層の補彩若干。保護膜塗装（スプレータイプのタブロー・ニス使用）。

3 ギュスターヴ・モロー

《ピエタ》（P・1959-161）

1888年以前 油彩 板 23×16cm

状態概要：保護膜が著しく黄変して、特に暗部では細部の図柄も判然としない程であった。基底材の板には異状はなかったが、地塗りは左上隅の極く僅かの部分が欠損していた。絵具層の保存状態は良好。
修復処置：アルコール、テレピン精油、ミネラル・スピリットを使用して黄変ニスの除去、画面洗浄。保護膜塗装（スプレータイプのタブロー・ニスおよびセミ・マット・タブロー・ニス併用）。

以上の修復処置に伴い、旧来の隅丸型の額縁を長方形の額縁に変更した。（写真参照）

4 アンリ・ルバスク

《窓》（P・1959-118）

1923年 油彩 カンヴァス 80×65cm

5 クロード・モネ

《舟遊び》（P・1959-148）

1887年 油彩 カンヴァス 145×132cm

6 マックス・エルンスト

《石化した森》（P・1965-5）

油彩 カンヴァス 81×100cm

7 フェルナン・レジェ

《青い空と赤い鶏》（P・1965-10）

1953年 油彩 カンヴァス 65×92cm

以上の4点は、何れも数箇所絵具の剝離が発見された。

修復処置：蜜蝋およびダンマール樹脂等の混合接着材による剝離箇所の固定。デトランプ、テレピン精油で稀釈した油絵具等を用いて欠損部分の補彩。

（以上7点の修復は何れも黒江光彦氏による。）

